

エリア ウェット

峡東教育事務所
地域教育支援スタッフ
TEL 0553-20-2737
FAX 0553-20-2733

回覧・配布をお願いします。増す刷り配布はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

ご意見・ご感想はこちらまで Email : miyazaki-atru@pref.yamanashi.lg.jp

「生まれてきてくれて ありがとう。」

テレビや新聞などでは、毎日のようにかけがえのない命が奪われたり、失われたりするニュースが流れています。特に痛ましいは、小さな命が大人の身勝手さで奪われることです。

子どもたちに命の大切さを教えることは、いくら言葉で言っても実感として伝わりにくいものです。これは、小さな頃からの積み重ねであり、一つ一つの体験から「命の大切さ」を感じ取らせることが大切ではないでしょうか。

思春期事業「命の学習」が峡東地区で行われました。地域の助産師さんたちが学校に来て、実際に教材等を使って授業をしました。山梨小学校(1/24)、牧丘第1小学校(1/29)、日川小学校(2/5)の3校で実施されました。今回は、最初の山梨小学校の取材に行ってきました。

「いのちの学習」

1月24日(木)

山梨小学校3年生47名と保護者



自分にとって大切なものは何ですか？
いのち？
家族？
お金？



赤ちゃんはどうやって大きくなるのでしょうか？
すごくたくさんの方が上がりました。関心がある証拠ですね。



3ヶ月・5ヶ月・7ヶ月・10ヶ月の大きさの赤ちゃんをだっこしてみよう。
「思ったより大きくて、重くてびっくりしました。」(感想)

生きているってどんなことかな？

自分たちの心臓の音を聞いてみよう
妊婦さんの赤ちゃんの心臓の音を聞いてみよう。
実際の妊婦さん(保護者)が登場です。



赤ちゃん体験
お母さんのお腹から生まれる疑似体験です。
「がんばれー。」というみんなの声と同時に元気に生まれました。

助産師さんから色紙を渡されました。そこには小さな針の穴があいていました。その穴は命のはじまり、つまり卵子の大きさだそうです。子どもたちも電灯に穴をかざしながら「えーっ、小さい！」と驚いていました。少しずつ大きくなる赤ちゃんの様子、心臓の鼓動、お母さんのへその緒から酸素や栄養をもらっていたことなどを通して、子どもたちは「自分がこの世に生まれたことの大きさ」を感じたことと思います。助産師さんの「生きていることが100点満点」という言葉が印象的でした。

教育評論家の坂本光男先生の言葉です。「子どもの誕生日に、ケーキを食べることもいい。プレゼントもいい。でも、ぜひ『生まれてきてくれて ありがとう。』という一言をそえてください。」

つなげよう 子どもの育ち 子どもの学び

～「峡東地区 保・幼・小・中連携セミナー」を終えて～

「小1の子どもたちが、落ち着いてすわってられない」「中学校の生活になかなか慣れない」こんな問題を少しでも解決しようと、1月29日（火）山梨市民会館に、保育所（園）・幼稚園、小学校、中学校、教育関係の方々113人が集まり、『保・幼・小・中の連携セミナー』が開催されました。

第1部では、教育事務所から保・幼・小・中の連携アンケート結果について次のような提案をしました。

子どもたちどうしの交流から始めよう。
授業参観，保育参観を活かそう。
「連携推進会議」などを立ち上げ，職員交流を図ろう。
親も巻き込んだ連携の場を設定しよう。
子ども理解の情報交換を計画的に。
教育課程内に位置づけよう。
早い時期から継続的なつながりを。

その後，10グループに分かれて話し合いをしました。子ども同士の交流だけでなく，職員や親を巻き込んだ取組が紹介されたり，課題やその対策など，活発な意見も多く出されました。講師の先生も「みなさん大変熱心ですね。」と感想を述べられていました。

話し合いの後，3つのグループに発表していただきました。

保育園の指導と小学校低学年の指導について話し合う機会をもった。
保育園の子どもたちが，小学生と交流することによって不安感が取り除かれ，期待がふくらんだ。
より効果的な小中の交流を工夫し，継続していくことが大切。



第2部では，山梨大学教授の鳥海順子先生より「心の発達に沿った保・幼・小・中の連携をめざして」と題した講演と序言をいただきました。

乳児期	大人に対する絶対的な信頼感を育てる大切な時期。
幼児期	自律性・自主性を養う時期。何でも自分でやってみようとする。
学童期	勤勉性を養う時期。好奇心や知識の修得にチャレンジする時期です。
思春期	友だちと同じ行動をしたがる時期です。いい意味で大人を乗り越えようとする時期。

また「自分は価値ある人間だと思う」「自分に満足している」と感じている日本の子どもたちは，非常に少ないことも話されました。

小さな頃から，「あなたがいて嬉しいよ」「手伝ってくれて助かったよ。」「ありがとう。」「頼りにしているよ。」などと言われて育ってきた子は，きっと自己肯定感が高いのだと思います。

《 お知らせ 》 「つみき広場」

日時 平成20年3月15日（土）
午前10時～12時（受付9：30～）
場所 笛吹市スコレーセンター集会室
対象者 笛吹市内 幼児～小学生
主催 笛吹市
内容 3種類のヒノキのつみ木を使って，思い思いの形を積んで楽しむ。
幼児は親子で，小学生は友達と共同で積んで楽しむ。



石和・山梨園芸高校の統合案地域会議で了承 新高校 2010年4月開校予定



石和高校と山梨園芸高校の統合・改編計画で、1月17日両校の関係者や峡東3市教育長、小中学校のPTA代表約30人が出席し「峡東地域の新しい学校づくりに関する地域会議」が開かれました。新設高校を2010年（H22年）4月開校などとする県教育委員会案が全会一致で了承されました。県教育委員会は新年度予算案に、新校舎工事のための関連予算を盛り込む予定です。

甲府城西高校、北杜高校、富士北稜高校に続く4校目の総合学科のある新設高校になります。2010年（H22年）4月開校は、現在の中学1年生の高校入試に相当します。

今、受験中の中学3年生と来年度受験の中学2年生は、今まで通り石和高校と山梨園芸高校で入試が行われます。また、入学後も学習面もクラブ活動面も従来通りに行われますので安心して受験して欲しいと思います。新高校名は後日公募して決定します。

< 新設高校の具体的な設置方針 >

・教育課程

<p>石和高校 普通科 3クラス(120人) 国際教養科 1クラス(35人)</p> <p>山梨園芸高校 園芸科 2クラス(60人) 食品化学科 1クラス(30人) 農業土木科 1クラス(30人)</p>	統合	<p>普通科 3クラス(120人)</p> <p>果樹園芸科 1クラス(40人)</p> <p>食品化学科 1クラス(40人)</p> <p>総合学科 3クラス(100人) 4系列</p>	<p>県内最大規模の 8クラス300人 規模</p>
--	----	--	------------------------------------

<p>普通科</p> <p>果樹園芸科</p> <p>食品化学科</p> <p>総合学科（4系列）</p> <p>環境・緑地系列</p> <p>情報・観光系列</p> <p>国際文化系列</p> <p>人間科学系列</p>	<p>個に応じた少人数指導により、学力の向上と進学実績の伸長</p> <p>果樹栽培や園芸について学習し、峡東地域の基幹産業を担う人材の育成</p> <p>食品化学について学習し、食品産業を担う人材の育成</p> <p>将来を見つめ、自分の時間割をつくり主体的に学習する</p> <p>自然との共存や緑地空間について学習し、住みやすい生活環境を創造する産業人の育成</p> <p>情報・観光・流通などを学習し、観光地である峡東地域の産業を担う人材の育成</p> <p>石和高校の国際教養科を引き継ぎ、豊かな国際感覚と生きた英語力を身に付ける進学対応の普通科系列</p> <p>介護・福祉・看護・栄養等の生活福祉、体育系大学への進学・スポーツインストラクター等のスポーツ科学を学び進学を目指す</p>
---	---

総合学科とは、従来の普通科・職業学科を統合した第3の学科として、H6年に誕生し全国で300校以上あります。将来の職業選択や人生設計を視野に入れたキャリア教育を柱に、様々な学力や能力を引き伸ばすため、自分にあった生徒一人一人の時間割で学習します。

・設置場所

石和高校の敷地に新校舎を新築・改築・改修し、H23.3月完成予定
園芸高校の農場等は、継続して使用します。

文

異国文化とふれあう2週間の交流

日川高校は、イギリスの伝統校キャサリン・レディ・パークレイズ・スクール(KLBスクール)と姉妹校として提携しています。毎年、10月にはKLBから(右の写真)3月には日川高校から(下の写真)それぞれ20~30人程度の生徒が短期研修のために海を渡ります。お互いの国でホームステイをして、それぞれの国の生活、文化、風習などの違いに触れる機会



は、私たちにとって貴重な体験になります。「海の向こうに友だちがいるって考えると、ちょっとワクワクします」とは、研修に参加したある生徒の言葉でした。確かにワクワクしますよね。

日川高校といえば、毎年多くの国公立大学、有名私立大学への合格者を出していることでも知られています。……が、私たちの高校生活は勉強ば

武

関東・全国レベルの部活動で真剣勝負

日川高校には関東レベル・全国レベルの部活動がいくつもあります。6月の関東大会には体育局20部のうち13部が出場しました。夏にはインターハイでウエイトリフティング部が2年連続全国団体準優勝を果たしました。次の写真は105kg級トータル1位で優勝した深沢健志郎君(3年生)の雄姿です。



その他、12月にラグビー部が花園大会に出場(通算37回)したことも記憶に新しいところでしょう。もちろんスポーツばかりではありません。書道部では堀内瑤恵さん(1年生、ソフトテニス部と兼部)が“書の甲子園”とよばれる「国

際高校生選抜書展」個人の部で優秀賞、UTY教育美術展では文部科学大臣賞に内田由紀子さん(3年生)が選ばれ、全国高校総合文化祭には新聞部や生物化学部が出場を果たしました。学習と両立させる、質の高い文武両道を目指して頑張る仲間たちがいます。

日川高校の門を一步、中に入ると 私たちの明るい声と熱い鼓動が聞こえるはず!! ~「プラスアルファ」の高校生活~



かりではありません。この1ページには、私たちの高校生活の、ほんの一コマと、その中で活躍する仲間のことを紹介します。

依田秀樹君(3年生)は、6歳からピアノ、8歳からチェロを始めました。

そんな依田君、“音楽少年”と思いきや、部活動はバスケットボール部に所属し、副部長としてチームをまとめて活躍してきました。

じゃ音楽は???

実はこちらも続けてい るんです。チェロ演奏では数々の音楽会に参加し、1年前にはスロバキアで開かれたコンクール「チェロ・フェスティバル」に出場しました。勉強、部活動、音楽の3つの道で頑張る依田君は、「大変なことばかりではありません。楽しい授業もたくさんあるし、自分次第でいくらでも学校生活は楽しくなります」と答えてくれました。



「友だちと一つのものを完成させたときの達成感はずばり」……日川高校の学園祭は、スクールカラーの“紫”にちなんで、紫風祭といいます。毎年7月に行っていますが、昨年のテーマは「煌めけ、日川華火、君に魅せたい夏がある!!」でした。学校全体で取り組む全校製作、クラス全員で取り組むクラス発表、……大変だし、悩んだり、友だち同士でぶつかることもあるけど、真剣に取り組むからこそ、大きな感動をよびます。

クラスでおそろいのTシャツやポロシャツを着て、(先生たちも一緒に着てくれるんですよ!!)毎年、盛り上がりは最高潮です。

両

やる気一つで世界は広がる

どうせやるなら、思いきり!!

道